

人間発見



25年前、勤務していた病院を退職し、訪問看護を提供する会社、在宅看護研究センターを興した看護師の村松静子さん(65)。「開業ナース」としての活動が認められ、赤十字国際委員会が顕著な功績を上げた看護師に授与するフロレンス・ナイチンゲール記章を昨年、受章した。

え、福島に賃貸契約をするため出かけていたところでした。ここは、被災された方が、その人らしく生活することを支える「別

私が最初に訪問看護にかかわったのも、ボランティアとしてでした。まだ日本赤十字看護大学の設立準備室で働いていたころ、集中

当時はそういった人たちを支えるシステムがなく、本人や家族が大きな負担を背負っていました。1986年、「今こそ必要だから」の思いで病院を離れ、有限会社在宅看護研究センターを設立しました。必要なときに、必要な看護を、必要なだけ提供するのが看護師の役割だからです。以来、ビジネスとして看護を提供し続けてきました。ナイチンゲール記章を受章できたのも、公衆衛生の分野で開業し、在宅看護を広めてきたことが評価されたからだそうです。

学や生理学があったからです。入学して間もない看護実習で、1人の患者と出会った。1年生の実習で受け持った方は、小さな息子さんと2人で暮らす、40代前半の女性でした。乳がんのため乳房の周辺も含めて切除されていたので、うまく腕が動かせません。そこで、リハビリと称して秋田の民芸品「御殿まり」を一緒に作って、腕や肩を動かしました。担当したのはわずか1週間でしたが、その後も病院で会うと声をかけてくれました。

「家でみてあげたい」…ある夫の懇願が原点

看護事業が評価されナイチンゲール記章

福島でボランティア、被災者に「よりどころ」

ナイチンゲール記章を受章するかもしれないという連絡は、昨年5月、福島市から帰ってきた夜に入りました。東日本大震災のニュースを見るや、避難所で病に苦しんでいる人たちが第2の我が家として住める「よりどころ」がつかれないかと考えました。ところが、家を貸してくれる方がなかなか見つかりません。ようやく私の考えを理解してくれる大家さんと出会

宅」を目指しています。つらいときや苦しいとき、必要なときに訪ねてきて、自由に利用できる。使う人も、支える人も一つの家族のように集まれる、そんな「擬ぎ」家族」をつくりたいと考えたのです。幸いにも3つの団体から助成金をいただくことができましたが、活動を支えるのは全国から集まったボランティア看護師です。

治療室で救命された方のご主人から、「妻を家でみてあげたい。助けてください」と懇願されたのが始まりでした。

す。

1947年、秋田県の六郷町(現・美郷町)で生まれる。

父は理科の教師。母も教師でしたが、私たちが生まれると退職し、自宅で編み物教室を始めました。祖母も商店を営んでいましたし、女性に起業家の血が流れている家系なのかもしれません。

県立秋田北高等学校時代は生物クラブの部長でした。当時から解剖学や生理学が好きだったんです。日本赤十字中央女子短期大学(現・日本赤十字看護大学)に進学したのも、カリキュラムに生物

1週間後、その方は亡くなられました。あの昼休みに言われた「娘になつて」という言葉は、福島のセカンドハウスで目指す「擬家族」にもつながる、私の看護の原点になっています。

父は理科の教師。母も教師でしたが、私たちが生まれると退職し、自宅で編み物教室を始めました。祖母も商店を営んでいましたし、女性に起業家の血が流れている家系なのかもしれません。

1週間後、その方は亡くなられました。あの昼休みに言われた「娘になつて」という言葉は、福島のセカンドハウスで目指す「擬家族」にもつながる、私の看護の原点になっています。

父は理科の教師。母も教師でしたが、私たちが生まれると退職し、自宅で編み物教室を始めました。祖母も商店を営んでいましたし、女性に起業家の血が流れている家系なのかもしれません。

1週間後、その方は亡くなられました。あの昼休みに言われた「娘になつて」という言葉は、福島のセカンドハウスで目指す「擬家族」にもつながる、私の看護の原点になっています。

開業ナース、患者を自宅へ

①

学したのも、カリキュラムに生物

(聞き手は編集委員 大谷真幸)